

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	川村 保

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	【継続】 アンケートの回答率が低いので十分に代表性のあるアンケート結果であるかについては問題があることを考慮しても、事前・事後の学習時間が不十分である科目があることが指摘される。
	理由	・科目の特性にもよるので調整はむずかしいが、授業によって難易度に差があるために予習・復習が必要になる授業とそうでない授業の差が出ている可能性がある。
②	課題	【継続】 授業によって履修者の数が適正な人数を超えているケースがある。
	理由	・履修するかどうかの学生の判断が、授業の内容等による要因以外のものに左右されていると考えられる。
③	課題	【継続】 学習環境の整備において、まだ不十分な点がある。
	理由	・改善は進んでいるものの、依然として老朽化した設備が飼養されているし、アクティブラーニングに適した構造の教室が不足している。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> ・入試改革以降、学生の授業への意欲や意識等が変化してきているように感じられるので、その点についてFD等の場を通じて検証する。 ・学生の意識の変化等についての、情報共有や共通理解化を図っていく。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度前期には韓国語や中国語を2クラス編成にするなどの改善をおこなっているが、一方のクラスに履修者が集中するなどの問題がまだ残っているので、引き続き改善を進める。 ・コモンズ等での活動を通じて学問の面白さを学生にアピールしていくことで、学生が履修科目を選ぶ際にその科目への興味を主要な理由となるように導いていく。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の施設等の整備や各教室の備品の整備については、引き続き注意し、事務局へ働きかけていく。 ・大規模な改修を伴いそうな事案については、次期中期計画策定も視野に入れながら施設等の整備の充実を図っていく。 ・時間割編成の中で適切な教室への配置を図るように調整していく。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・レスポンスカードで述べられていた意見や考え、あるいは疑問について、次回の講義の中で説明する。
- ・授業の途中でレスポンスカードを書かせながら、授業を進めている。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

・双方向型の授業ができることが望ましいが、授業の特性や学生の意欲や態度によってはそれが難しいケースがあるのも事実であり、そのような場合にはレスポンスカードをうまく利用することが効果的であると思われる。教員会議やFD等の場で、情報共有することで教育改善につなげていく。

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	原 玲子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	「継続」 事前・事後学習の方法や授業中に集中する方法が工夫されているが、学生に対する「事前・事後学習」の意識付けにつながる工夫が必要である。
	理由	授業内容を理解し、知識を習得していく過程で、学生が自ら、事前・事後学修は必要と認識することが重要である
②	課題	「継続」 昨年度は、ルーブリックに関するFDを行い、評価方法として、ルーブリックの作成が定着してきた。今後は、科目の拡大と、ルーブリックの内容、評価者などの関係を検討する必要がある。
	理由	ルーブリックを作成しても、技術試験など複数の教員が行うことから、評価に差があると不満を持つ学生もいることから、複数の教員が行わなければならない状態の場合など、公平な評価に対する検討が必要である。
③	課題	「継続」 電子書籍を使っている科目では、授業の事前・事後学修での活用状況が把握できるなどの効果も見えてきたが、PC必携化を踏まえて、電子教科書の検討およびPCの活用が習慣になるような方法や体制の検討が必要である。
	理由	看護は、急激に、ICTが進んでおり、PCの必携を機会に、ICT教育を充実させる必要がある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続」 事前・事後学修については、引き続きの課題である。今期も「講義最初の到達目標提示」「小テスト」「レポート」「課題の提示」等の工夫がされていた。各科目において、事前・事後学修をどのように行っているのか、その方法をどのように評価しているのか等の情報を共有し、FD等を通して、効果的な方策を検討する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続」 看護学群の将来構想として、地域包括ケアを推進できるナースの育成をめざしている。PC必携を契機に、道具および学生の能力を引き出すような看護情報学に関するカリキュラムについて検討する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続」 コモンズの整備に伴い、300講義室の視聴覚の工事も行われたが、ホワイトボードに板書すると、文字が残ってしまい、スクリーンとしての機能を果たさなくなる。ホワイトボードに映る映像は、鮮明さが低下し、画面に切れ目が入り、逆に「見難い」状況が改善されていない。授業進行において重要なことなので、ハードの側面について検討を行う。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・事前学習をしないとグループ討議に支障があるように工夫する。事後学修では、振り返りを課題とし一定の成果が見られた。
- ・Moodleに事前に講義資料を掲載していることについては、「よかった」との学生の評価がある。
- ・PCの必携化を受けて、参考資料は、電子システムで配信し、学生個々が活用できるように工夫した。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教員会議で紹介し、情報を共有する。
- ・看護学群のFD等を通して、事前・事後学修時間の確保を促進する方法等の検討やICTを強化したカリキュラム等について検討について検討を進める。

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	風見 正三

<p>1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">課題</td> <td>授業計画や事前・事後の学習方法の成果測定について検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td>事前・事後の学習方法の改善を進めてきたが、その評価手法の検討が必要。</td> </tr> </table>	課題	授業計画や事前・事後の学習方法の成果測定について検討する必要がある。	理由	事前・事後の学習方法の改善を進めてきたが、その評価手法の検討が必要。
課題	授業計画や事前・事後の学習方法の成果測定について検討する必要がある。				
理由	事前・事後の学習方法の改善を進めてきたが、その評価手法の検討が必要。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">課題</td> <td>実践知を伝授するための外部講師の効果や評価を行う必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td>授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の貢献度や導入効果の測定が必要。</td> </tr> </table>	課題	実践知を伝授するための外部講師の効果や評価を行う必要がある。	理由	授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の貢献度や導入効果の測定が必要。
課題	実践知を伝授するための外部講師の効果や評価を行う必要がある。				
理由	授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の貢献度や導入効果の測定が必要。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">課題</td> <td>インタラクティブな学習支援システムの到達度の測定が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td>Moodle や Moca 等の学習支援・評価システムの習熟度とその効果の測定が必要。</td> </tr> </table>	課題	インタラクティブな学習支援システムの到達度の測定が必要である。	理由	Moodle や Moca 等の学習支援・評価システムの習熟度とその効果の測定が必要。
課題	インタラクティブな学習支援システムの到達度の測定が必要である。				
理由	Moodle や Moca 等の学習支援・評価システムの習熟度とその効果の測定が必要。				
<p>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p>					
①	学類会議にて、各教科の事前・事後の学習の改善方法と効果を分析し、教員連絡会議で情報共有を行っていく。				
②	学類会議にて、学類ごとの外部講師の導入効果を分析し、学類毎に外部講師の導入戦略を検討していく。				
③	学群のSSC-WGが主体となり、インタラクティブな学習支援システムの習熟度やその効果を測定し、マイクロFDや教員連絡会議にて情報共有を進めていく。				

<p>2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の構成を可視化し、学習計画が進むよう講義運営を進めていく。 ・事前学習を進めるため、講義資料を事前に共有し理解するよう進めていく。 ・理論の習得だけでなく、演習や対話形式の議論を増やし、双方向の講義運営を進めていく。 	
<p>2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の全体像を学習前から理解し、体系的な学習計画が立てられるようなシラバスや講義運営を構築し、教員連絡会議等で情報共有を行うとともに、各学類の特徴も踏まえた定式化を進めていく。 ・講義の中で、実践的な知が習得できるよう、双方向・対話型の講義方式を学類毎に共有し実践していく。 	

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：後期は授業評価の回答方法が変わったこと、評価時期が遅れたこともあり、回答率が数%から20%と前年に比べ大きく減少した。
	理由	各教員に最終回講義時で授業評価実施の周知をお願いしたが、新システムの開発遅延から、旧システムでの評価となり、しかも実施時期が3月20日からと春休み期間中の実施になったことが大きな原因である。
②	課題	継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。なお、実習科目については、毎回レポート課題が出ており、2時間以上の時間外学習を実施した例が多かった。
	理由	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。
③	課題	継続：専門基礎科目の履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。
	理由	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、新システムの開発状況による。
②	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD(Learning Through Discussion)やグループワークを取り入れること、事後学修を重点的に宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施することで、授業外学修の習慣付けを実現する。
③	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD(Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修(簡単な演習)のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

平成30年度後期は授業評価の回答数が大幅に減少したことから、コメント数も例年に比べかなり少なく、授業実施・授業改善の良い事例を取り上げることは難しかった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

コメント数も例年に比べ少なく良い事例がほとんど出て来なかったことから学群(学部)・研究科内での共有化は難しいが、教育改善計画としては、昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行い、さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。